

---

# 回転

游太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

回転

### 【NZコード】

N8570M

### 【作者名】

游太

### 【あらすじ】

男の子3人組が寿司を食べるだけのお話、ただし2人は食つてねえみたいな。

何年か前にブログで公開したもの。

「すいませーん、中トロ、サビ抜きで」

まだ食つのか。

未だ食欲の衰えない秀人しゅうとを呆れと驚きをもつた眼で一瞥し、敦士あつしはまた静かにあがりを啜つた。

前々からその意外性については優真ゆみから聞いてはいた。

だがまさか、こんなに大食いだとは。

秀人の周りに山の「ことく積まれた皿を、敦士は無意識のうちに皿で数えていた。

二十三枚。

次いで壁の時計に目を走らせる。席についてまだ十分ほどしか経つていない。

早食いだとは聞いてなかつた。

「ホタテぐださい。サビ抜きで」  
ええ。

秀人はこういった場所に慣れているらしかつた。平氣な顔で注文を繰り返し、そして常に「サビ抜き」なのがなんとなく微笑ましい。よく出来るよな、と敦士は思つ。

自分の意思を率直に伝えられることが、正直に羨ましいと思う。秀人が特別というわけではなく、それが誰にとっても「当たり前」なのだとわかつてはいるが。

自分には、出来ない。

つーか、それ以前の問題だよなあ 敦士は皿の前を通り過ぎていく寿司をぼんやりと眺める。

「あつくん、ビーフしたの？　お腹空いてない？」

「え、」

そんなことは、と答える前にさうこう顔をしていたのだろう、「でも全然食べてないじゃん」と秀人は続けた。

「あつくんも少食？」

秀人は軽く首を傾げる。

「も」、というのは優真を表している。「弟に畠袋とられたんじやねえの」などと言われるほど、彼はそういう点では秀人にまつたく似ていなかつた。今も寿司にはほとんど手をつけていないように見える。

「んー……、」

そりやお前にくらべれば少食だけど　といつ言葉を飲み込んで、敦士は言ことどむ。そして、ビーフ説明したりいものか。

「回転、」  
「うん？」  
「回つてるじやん、スシが」「そりやー、回転寿司だからねえ」「だからせ、……わかんなくて」「なにが？」

情けないやら恥ずかしいやらで、敦士はなかなかその先が言えない。

秀人はわからないと眉根を寄せ、優真も何事かと視線を向ける。追い詰められた敦士は微かに顔を赤らめて、やっと口を開いて、ぼそりと、

「手を出す、タイミング、が……」

「すいませーん、ちょっと回す速度下げてください」

「つや、いいから、」

「てか、いつそのこと止め」

「いいから！」

「馬鹿、止めたら回つてこないだろ」

「あー、そつか」

「頼んでやろうか？ 何が食いたい」

「だからいいって、」

「おじさん、今日あるネタぜんぶ」

「いい！ 大丈夫だから！」

今度は回らないところに連れてつてあげるね。

さわやかに笑う秀人を見てちょっと泣きたくなつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8570m/>

---

回転

2010年12月31日18時41分発行